

SDGsセミナー～包摂的成長へのアプローチ～ 開催報告

九州経済産業局
総務企画部企画調査課

- 地域の「包摂的成長」について考えるオンラインセミナーを開催。2日間で延べ150名が参加。
- DAY1は統計・ジェンダーをテーマに開催。参加者77名、満足度87%（満足・やや満足の合計）。
- 九州経済調査協会の小柳主任研究員からは、九州の将来人口推移予測、今後の課題について解説いただいた。
- お茶の水女子大学の佐々木特任教授からは、ジェンダー研究が注目されている理由について、各種事例、諸外国との違いなど、多様な観点で講演いただいた。

DAY1 *統計／ジェンダー 編

2023. 3.8 Wed14:00～16:00

● 開会

将来人口推計からみる九州の課題

九州経済調査協会 事業開発部
主任研究員 小柳 真二 氏

● 質疑応答

性差の視点から社会を変える

お茶の水女子大学
ジェンダード・イノベーション研究所
特任教授 佐々木 成江 氏

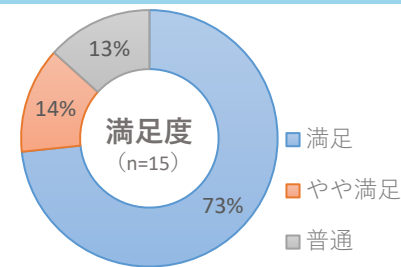
● 質疑応答、閉会



九州経済調査協会
小柳 真二 氏



お茶の水女子大学
佐々木 成江 氏



*感想

- ・国内他地域と比較した九州の人口動態の特徴などが興味深かった。
- ・女性活躍がもたらす効果に驚いた。今後の業務の面などの参考にしたい。
- ・どちらのテーマも今後の企業採用や維持にも影響する問題のため考えさせられた。

*質疑応答

Q:人口減少が避けられない中、九州が今後も成長をし続けるために必要なことは？

A:経済成長という観点では、生産性を向上させることが急務。DXの取り組みが重要。そのために人材育成が必要であり、新たなデジタル技術・サービスの普及を進めるには社会全体でデジタルリテラシーを高める必要がある。(小柳氏)

Q:日本で真のジェンダー平等を実現するためには働き方改革が鍵だと思うが、多くの男性経営者はその点を理解していないように感じる。彼らに理解してもらうには？

A:女性役員層を増やすことが一番の近道。諸外国では、実効性を担保したクォータ制が導入されている。(佐々木氏)

SDGsセミナー～包摂的成長へのアプローチ～ 開催報告

九州経済産業局
総務企画部企画調査課

- DAY2は、NFT・アートをテーマに開催。参加者73名、満足度は93%（満足・やや満足の合計）。
- 山古志住民会議の竹内代表からは、新たな地方創生の手法として、デジタル業界内外から注目を集める地域活性化のためのNFT、WEB3.0活用の取組や、今後の展望について講演いただいた。
- BEPPU PROJECTの中村代表理事からは、地域や企業におけるアートの活用を通じた長年の取組、今後の展望について講演いただいた。

DAY2 *NFT／アート 編

2023. 3.15 Wed14:00～16:00

● 開会

デジタル村民とはじめる集落存亡をかけた挑戦

山古志住民会議 代表 竹内 春華 氏

● 質疑応答

地方都市における文化創造と地域づくり

特定非営利活動法人BEPPU PROJECT
代表理事 中村 恭子 氏

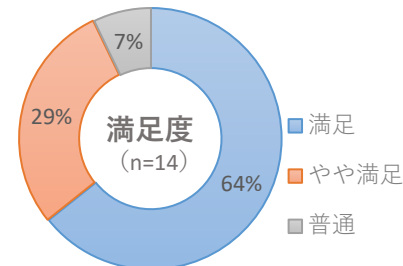
● 質疑応答、閉会



山古志住民会議
竹内 春華 氏



BEPPU PROJECT
中村 恭子 氏



* 感想

- お二人の話から地域の強みを活かし、周囲と連携しながら地域活性化をされていることが伝わった。その輪が他の地域にも広がって欲しいと思った。
- いろんな方面・方法でSDGsとかかわり合えることが分かりました。

* 質疑応答

Q:ローカルDAOの運営には得られる成果(アウトプット)より、地域課題の解決に貢献するプロセスが重視されるように感じる。取組を広げるため、行政の役割は何か考えられるか。

A:山古志DAOは、行政区分にとらわれず、山古志のコミュニティ・文化の存続のため、情報共有・検討・相談・挑戦を繰り返し実践している組織。行政ともこまめな連携(情報共有)が大切。切磋琢磨しながら挑戦を支える役割を担ってほしい。(竹内氏)

Q:様々な方向から取り組まれる地方創生を“アート”の切り口で行うメリットや難点は？

A:“アート”は世の中に対して新たな“問い”を提示するもの。アートは地域課題の本質を可視化すると同時に、これまで誰もやったことがないことに挑戦することになるので困難を伴う。それを乗り越えるプロセスが課題解決や人材育成にもつながり、地域にとって有意義なものになる。(中村氏)